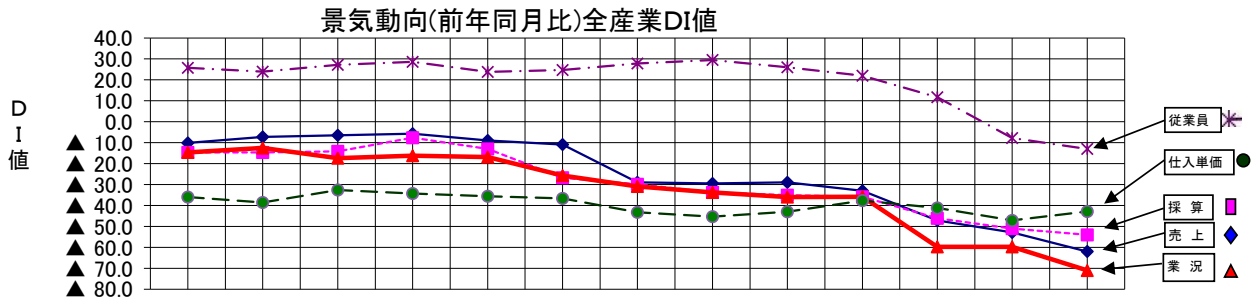


# 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 5月分

## 【5月の概要】新型コロナウイルスの影響さらに深刻化、見通しに不安広がる

4月の業況判断に比べると、仕入単価についてのマインドは若干回復したものの、依然低水準。その他の指標でいずれもマイナス幅が拡大した。従業員DIは、先月人手不足から過剰局面に一気に転じたが、今月さらに悪化し、厳しい状態が続いている。

緊急事態宣言の解除により、一部に若干明るい声が聞かれるものの、外出需要の減少やイベント中止等が続く中、今後「新しい生活様式」が定着して、消費行動の変化や需要の落ち込みも予想される。しばらくは「守りの姿勢」が強いられることになるとと思われる。



### 【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2019年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	2020年 5月
◆ 売上	▲ 10.1	▲ 7.3	▲ 6.5	▲ 5.7	▲ 8.9	▲ 10.9	▲ 28.9	▲ 29.5	▲ 29.0	▲ 33.0	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 62.0
■ 採算	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 12.9	▲ 26.7	▲ 29.9	▲ 33.7	▲ 35.0	▲ 35.8	▲ 46.1	▲ 51.0	▲ 54.0
▲ 業況	▲ 14.6	▲ 12.5	▲ 17.4	▲ 16.2	▲ 16.8	▲ 25.7	▲ 30.9	▲ 33.7	▲ 36.0	▲ 35.8	▲ 59.8	▲ 59.8	▲ 71.0
● 仕入単価	▲ 36.0	▲ 38.5	▲ 32.6	▲ 34.3	▲ 35.6	▲ 36.6	▲ 43.3	▲ 45.3	▲ 43.0	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 42.9
* 従業員	25.8	24.0	27.2	28.6	23.8	24.8	27.8	29.5	26.0	22.0	11.8	▲ 7.8	▲ 13.0

売上DIは9.1ポイント、採算DIは3.0ポイント、業況DIは11.2ポイントマイナス幅が増加。仕入単価DIは4.2ポイントマイナス幅が減少、従業員DIは5.2ポイントマイナス幅が増加となりさらに過剰局面が進行した。

### 全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
3月	▲ 52.0	▲ 54.9	▲ 59.8	▲ 20.6	2.9
4月	▲ 64.7	▲ 62.8	▲ 68.6	▲ 17.7	▲ 10.8
5月	▲ 54.0	▲ 54.0	▲ 62.0	▲ 2.0	▲ 16.0

先行き見通しでは、売上DIが10.7ポイント、採算DIは8.8ポイント、業況DIは6.6ポイント、仕入単価DIは15.7ポイント見通し改善、従業員DIは5.2ポイント見通し悪化となった。

### 【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	機械据付	機械メーカーが修理等で来県しづらい分、当社の仕事が増加している面もある。
	設備工事	現在の仕事はコロナ以前に受注した工事を中心。夏場以降に影響が必ず出てくるはず。
製造業	鋼材	現場工事の際、県をまたいだ仕事を協力会社に辞退される場合がある。
	食品	多くの販売先が休業、輸出も当面見込めない。工場を一定期間休業し雇調金の申請を考えている。
卸売業	食品	緊急事態宣言以降、外食向け需要が激減する一方、巣ごもりにより量販店向け売上が増加。
	衣料品	イベント等が中止になり売上が半分以上に激減。コロナが終息しても回復は2~3ヵ月後になる見通し。
小売業	自動車	来店客減少。生産調整から新車販売は3~4割減。輸出ストップの影響で中古車オークション価格も下落。
サービス業	飲食	テイクアウト等を行っても売上は昨年の一割未満。最も恐れるのは長期化による外食習慣自体の縮小。
	広告	例年開催されるイベントが中止となり、売上が大幅に減少。今後どこまで続くか不安である。
	タクシー	緊急事態宣言解除後は、人の流れが多少多くなってきて、明るい兆しも見え始めているのではないかと。